



元年 芽を出した植物が成長して茎や葉が大きく成長する年ともいわれます。はぐるまは沢山の芽をもっていますので今年も成長の時

仲間
みらばで今まで蓄えてきた力を十分に発揮していきます。
農園で汗を流し働く、たくましい姿をお見せします。

職員は
コロナ禍にもめげず、常に最善を目指し、仲間と一緒に働きます。

同志を偲ぶ



はぐるまの会理事
松井 隆一さんが
二〇二二年
十二月二十三日に
逝去されました
永年に渡り

はぐるまの仲間を
愛し、共に汗を流し、笑い
沢山の活動をしてくま
した。はぐるまの未来の為
に沢山の助言を頂きました
心より感謝申し上げます



松井さんの思い出

「あおばホーム」でも一緒に生活していました
ドンキホーテで買った面白メガネをかけてみせ
たら、ホームのみんなで爆笑でした

仲間自治会 山田 俊輔

北八ヶ岳の登山のグループで頂上まで同行し
ました。2003年南回りで赤岳の途中まで一緒
に行き、次は一緒に登ろうと誘われていました。
農地は1か所だけでしたが、地域や農家の方
と交渉していただき、だんだん増えてきました。

音楽のコンサートも一緒に行きました。
スキーの自慢話も聞きました。信州栄村やスイ
スの写真も見ました。私も行きたかったです。
地域新聞にも載りました有名な人でした。

最後に

永年貴重な思い出が
いっぱい

感謝しています。

ご冥福を

お祈りしています。



No.118

2023年 2月3日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308

松井さんの思い出

松井さんとの出会いはホームでした

よみうりランド駅近くに、あおばホームがあり、そこで松井さんがホームの職員として入っていました。息子が初めてホームに泊まり、なかなか慣れて松井さんには迷惑をかけてしまいましたが、優しく接していただき、息子もホームが楽しくなってきました。少しは成長してくれたみたいです。

農園では、畑の真ん中で椅子に座り

収穫した里芋の土を皆で取りました。仲間が集中できるように、歌を歌ったり、楽しいひと時を過ごしました。

仕事終わりにはサポーターズの人たちとの

お茶タイムで、たあいがない話をして時間がすぎます。松井さんに声を掛けられ入笠山に登り、経験のない私があると頂上まで登り切れ、素晴らしい景色を見ることができました。

みらぼが完成して松井さんはとても喜んでいました。でも心配していました。(大丈夫ですよ)仲間が松井さんの教えを引き継いでいます。安心してください。

語りつくせない思い出が沢山ありますが、私の心の中に残しておきます。長い間ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

農園サポーター 野瀬 佐知子

ふるわいの豊かな発展をねがった大先輩へ

はるわいの会 福田 真

ほんの一部のエピソードしかお伝えをすることができませんが、心から仲間たちを愛してくださった松井隆一様を偲び、「ご紹介をさせていただきます。

皆さんも、「まちづくり」という言葉を存じだと思えます。今から30年以上前、はるわいの会もまだ創設期だった時期に松井隆一さんは宮前区内で一人の経営者として、地元のため何ができるのだろうか?と商店街の勉強会を通じ、まだ「まちづくり活動」や「SDGs」などという言葉も無かった時代に、地元の各自治会・商店街・小中学校・生産者組合等と一緒にふるさとを流れる平瀬川の清掃活動を立ち上げます。

この活動は、同じ地域で生まれ育った多種多様な人々との共働活動・交流を通じて、自然環境や歴史と文化を子供たちに継承をすること、ふるさとの豊かさを体験する場として、現在も「平瀬川流域まちづくり協議会」として継続しています。この時期から取り組まれてきた桜並木の植樹や親水公園整備、流域のウォーキングロードの実現、さくら祭りでの鮎の放流等は、30数年後を生きる私たちが日頃親しんでいる環境・景観を形づくっていた先輩たちの実績となります。

その後、川崎市内では初めてとなる市民による緑地保全団体である「こもり谷戸の自然を守る会」や市民健康の森「水沢森人の会」への発足時からサポーター、NPO法人多摩川エコミュージアムでは環境保全団体の代表理事を務めるなど、ライフワークとして、豊かなふるさとづくりを実践して来られました。このような、地域交流・文化継承・環境保全への取り組み全般が「まちづくり活動」として世間一般に定着するようになり、現在ではSDGs(持続可能な世界への開発目標)に代表される世界基準の取り組みへと発展をしています。正にその礎を郷里の同志と共に作り上げてこられた一員となります。

このように忙しく活躍をされていた松井隆一さんとはるわいの会のご縁は…

今から約20年前、地元宮前区に入所施設建設が計画をされた際、(残念ながら一部の方たちからの反対運動がある計画が遅延していた際)この時の行政主催の施設建設説明会に地域団体の一員として参加をしていた松井さんは、「障害のある人たちを迎え入れた実績を未来の子供たちに残してゆこう」という想いで、誰からも頼まれる訳でもなく、地元の皆さんの話し合いを粘り強く続けていただき、無事に建設計画が進化したとお聞きしています。

また、このエピソードの素晴らしいところは、「では障害者施設ということ
は、頭では立派な仕事、たいへんな仕事と理解をしているつもりではあるが、
自身で体験をしたこともないのに、評価・評論をしても良いのだろうか
か?」と考え、障害者支援施設完成後に非常勤職員として応募をし、人生では
じめて福祉業務に従事をされ、たくさんの出会いと体験をされたことので
す。その後、他の福祉団体の実態も見てみたいと模索をされていた時にはぐ
るまの会「あおばホーム」の求人広告に応募をいただきました。

そして、はぐるまの会にご縁をいただいていたからは、はぐるまの活動的な仲間
たちと生活を共にしてゆく中で、仲間たちのファンになっていただきました。
特に様々なまちづくり活動を通して培ってきた地域の連携ネットワークを仲
間たちに紹介していただいた事により、休日の活動における幅と選択肢が一
気に広がりました。とんもり谷戸や水沢の森での里山保全活動、多摩川での
クリーンアップ等、年間を通して地域で参加自体を歓迎していただけており、
近隣の諸団体では、「共働作業に参加をしてくれる仲間」はぐるまの仲間た
ち」という代名詞となっています。

そして何といっても、現在のはぐるま稗原農園を誘致いただいたことです。
それまで、丸2年間に亘り、行政、農協関係者等に借られる畑を紹介して欲
しいとお願いをして廻っておりましたが、今のように「農福連携」などの制度
もなく、市内では前例がないため、全く進展がありませんでした…その際、
「僕も協力をするので、一緒に要望を伝えるに行ってみよう!」と農政窓口か
ら地元で何百年も続く農家さんに至るまで、「新しい福祉の場づくりとして、
福祉農園を開設できる畑を紹介して欲しい」と全面的にご支援をいただきま
した。その結果、まずは農政から、現在の早野ハーブ園でのモデル事業のお話
をいただき、その成果を基にお願いに廻っていた農協さんから、現在の「はぐ
るま稗原農園」のオーナーをご紹介いただきました。このように想い返して
みると、松井さんが、ふるさとが豊かに発展すること願い活動を実践されて
きたその成果の一つとして生まれた「はぐるま稗原農園」がいかに多くの皆
様の活動の歴史の積み重ねの上にあるのかを痛感いたします。

農園設立後からは、大規模な農地の維持管理を支えるため、「稗原農園サ
ポーターズ」を設立し、多くの仲間たちの応援団を作っていたとき、現
在の「農園をがんばっている、はぐるまさん」という市内での評価を得
るまでに育てていただきました。

まだまだ、ご紹介をさせていただきたい素敵なエピソードは山ほどあ
るのですが、この度、松井隆一さんという大先輩からバトンタッチを受
けたことを機に、福祉施設である私どもならではの「ふるさとづくり」
を仲間たちを主人公として継続してゆきたいと思えます。

突然のお別れが本当に本当に残念ですが、天国で大好きなスキーや山
登りをしながら、これからも仲間たちの活躍を見守っていかください。
たくさんの愛情を頂戴し、心より御礼を申し上げます。



赤岳山荘にて
「赤岳のおばちゃん」(仲間が呼ぶ愛称)を囲んで
松井さんは中央白いキャップ